

平成 30 年度第 1 回 国立国際医療研究センター病院 医療安全監査委員会 結果概要

1. 日 時：平成 30 年 7 月 23 日（月）9 時～11 時
2. 場 所：国立国際医療研究センター病院 院長室
3. 出席者：
 - （外部委員）・山本 知孝
東京大学医学部附属病院 環境安全管理室長
 - ・細川大輔
細川大輔法律事務所・弁護士
 - ・出口桂太郎
株式会社ユーラシア旅行社取締役管理部長・公認会計士
 - （内部委員）・難波吉雄
国立国際医療研究センター 企画戦略局長
 - ・柳澤 武
国立国際医療研究センター 事務局長
4. 国立国際医療研究センター病院陪席者
 - ・大西 真 病院長
 - ・伊藤 裕和 総務課長
 - ・田崎 憲祐 患者相談専門職
 - ・廣井 透雄 医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）
 - ・高本 真弥 医療安全管理室長（専従医師）
 - ・吉田 メイ子 医療安全管理者（専従医療安全管理室看護師長）
5. 医療に係る安全管理のための指針の変更について、外国人患者に関する項目を追加し、本年 5 月 9 日付け改訂したことを説明する。
6. 平成 29 年度から平成 30 年度 6 月までの医療安全に係る報告（インシデント・アクシデント・報告の推移、有害事象・事例検討内容、外部報告等）
7. 平成 29 年度から平成 30 年度 6 月までの重点的に取り組んだ事項についての報告
 - 1) 全職員研修 e-ラーニングや春の医療安全研修会の報告
 - 2) インシデン・アクシデント報告システムの更新についての報告
8. 高難度新規医療技術評価部報告について、特定機能病院に求められている。当初医療安全が担当していたが、別に設置するように指導され、高難度新規医療技術評価部を置いた。平成 29 年度の報告を行った。
9. 未承認新規医薬品等評価委員会報告について、未承認薬や保険適応外使用についての承認を行っている。平成 29 年度の報告を行った。

10. 院内感染対策

- 1) 体制と活動を説明する。院内感染対策部門組織図で体制の説明を行う。部門と委員会の関係が示される。従来からの ICT に加え、AST・抗菌薬適正使用支援チームを組織図に明確にしたことを説明する。
- 2) 感染症発生状況の報告については実際に感染が起きた場合の報告について説明する。
- 3) 院内感染発生時の報告と対応についてとアウトブレイク時の報告体制を説明する。
- 4) 実際にサーベイランスを行いデータを取って対応している例について説明する。

11. 監査結果・監査委員からの講評

- ・総じて、現場からの報告を促す取り組みは良くできている。レポート数が増え、医師の割合も増えて、取り組みの成果が出ている。引き続き取り組みをお願いしたい。
- ・同じような事例が続いている場合の対策も引き続きお願いしたい。三方活栓は良い例だが患者、薬剤の取り違いについて、内容を分析し対応していただきたい。
- ・研修医の指示に対してのチェックについても検討していただきたい。
- ・研修は内容、量ともよくできている。医療事故被害者を招いての研修会は評価できる。人の入れ替わりがある中大事なことが継承されるように、中途採用者に対しても迅速に研修していただきたい。e-ラーニングの受講率は 100% で正答率などの分析もされており、良い取り組みである。
- ・高難度新規医療技術に関しては適切に運用されている。
インフォームドコンセントは重要であり、必要な項目の漏れがないようにフォーマットを整備することを検討されたい。
- ・院内感染について基本的によく取り組まれている。定型的な指標の評価は適切になされている。各事例に対する原因の分析や対策を引き続き行っていただきたい。

12. 次回の医療安全監査委員会予定平成 31 年 2 月 4 日（月）9：00～とする。